

6. 本人以外からの相談

家族からの相談では、家族が心配し困っていることに着目して対応します。病状が重く対応が困難な場合は、保健所に相談するように働きかけます。

近隣からの相談では、まず事実関係をよく把握します。対応が困難と判断される時は、保健所に相談するように働きかけます。

7. 自殺の危険への対応

こころの相談・支援は、自殺予防の観点からも取り組む必要があります。

最も重要でわかりやすい自殺の危険因子は、過去の自殺未遂歴です。致死的ではないものの自傷行為が認められたり、自殺の意図をほのめかしたりするときも、自殺の危険性が高まっていると考える必要があります。マスメディアが自殺事例の具体的な報道を繰り返すとき、他の患者の自殺を知ったとき、潜在的に自殺のリスクの高い方は大きな影響を受ける可能性があります。生活が大きく変わるとき、自分の生きていかなければならない現実と直面したときも要注意です。自殺の危険が迫っていると判断された場合には、主治医と連絡を取ること、誰かが付き添い、一人にしないことが大切です。

作成者一覧

編集責任者：竹島正(国立精神・神経センター精神保健研究所)

共同編集者：助川征雄(田園調布学園大学)／大場義貴(聖隷クリストファー大学)／勝又陽太郎(国立精神・神経センター精神保健研究所)

作成協力者：伊藤泰治(障害者就業・生活支援センターだんだん)／伊藤博子(土佐病院)／大瀧和男(かずおメンタルクリニック)／檜山禎代(訪問看護ステーション不動平)／加藤大輔(ピアステーションゆう)／加藤直人(京都市精神障害者地域生活支援センターなごやかサロン)／上村啓子(京都市朱雀工房)／川瀬正裕(金城学院大学)／桑原寛(神奈川県精神保健福祉センター)／佐々木敏明(聖隷クリストファー大学)／篠原正之(山梨県立北病院・全国精神保健福祉相談員会)／住友芳美(地域活動支援センターあけぼの)／高橋祥友(防衛医科大学校防衛医学研究センター)／田所淳子(高知県安芸福祉保健所)／田中裕美(訪問看護ステーション不動平)／谷聡子(高知県健康づくり課)／土屋賢治(浜松医科大学子どもこころの発達研究センター)／殿村寿敏(大阪府こころの健康総合センター・全国精神保健福祉相談員会)／西川里美(岡山県美作県民局勝英支局地域健康福祉室)／根本英行(静岡市精神保健福祉センター)／羽藤邦利(代々木の森診療所)／高和徳(埼玉県越谷保健所・全国精神保健福祉相談員会)／浜田和子(高知県中土佐町健康福祉課)／藤井弘(京都市精神障害者地域生活支援センターなごやかサロン)／藤田大輔(岡山県精神保健福祉センター)／松本俊彦(国立精神・神経センター精神保健研究所)／真野元四郎(福井県立大学・全国精神保健福祉相談員会)／山縣知佳(京都市精神障害者地域生活支援センターなごやかサロン)／山下俊幸(京都市こころの健康増進センター)／渡辺恵司(京都市精神障害者地域生活支援センターなごやかサロン) (50音順)

監修者：新居昭紀(聖隷三方原病院)／大嶋正浩(メンタルクリニックタダ)／菅原道哉(社会福祉法人恵友会)／山内慶太(慶應義塾大学看護医療学部)

平成16～18年度厚生労働科学研究費補助金(障害保健福祉総合研究事業)

精神障害者の正しい理解に基づく、

ライフステージに応じた生活支援と退院促進に関する研究

ライフステージに応じたこころの相談・支援ガイドライン

発行日：平成19年3月

発行者：「精神障害者の正しい理解に基づく、

ライフステージに応じた生活支援と退院促進に関する研究」

主任研究者 北井曉子

発行所：国立精神・神経センター精神保健研究所

〒187-8553 東京都小平市小川東町4-1-1

TEL 042-341-2712(内線6209) FAX 042-346-1950

